

ごあいさつ

ボランティアネイバース理事長退任にあたって

— 御礼のごあいさつ —

「アニュアルレポート 2020」の紙面をお借りして、2年間の理事長の任期を終えたことをご報告し、皆様のご支援に感謝等、心から御礼申し上げます。

始めに、19年度の活動報告と大きな組織体制の変更をご報告します。

理事会では、ボランティアネイバース（以下、VNS）の今後の展望について、理事間で自由に議論しました。その材料としては2020年1月に、会員や役員の交流の一環として、顧問・評議員・研究員の皆様との交流会を開催し、そこでいただいた貴重なアドバイスと中期計画における4つの重点テーマ（p15参照）が中心です。短期の今年度の事業、中期計画、VNSが主体的に取り組みたいテーマ、会員の皆様が関心を持ちサポートできるテーマ、長期の夢等も議論しました。もちろん実行可能性のあるテーマから着手する、資源の制約を前提にして、基本的方向を整理しました。

組織体制での大きな変更が生じました。三島理事兼専任の事務局長が、専任の職を10月末で退任しました。三島理事には引き続き副理事長職は継続するとともに、これまで関連してきた事業等に参与してもらいました。新たな体制として、事務局長に遠山理事、事務局には青木理事、鈴木孝廣さんが加わり、事業を実行しました。

そこに起きたのが20年2月以降のコロナ禍です。NPO活動は人が直接集まり、話し合い、研修し、事業を推進するのが基本的スタイルです。そこに社会的距離を保ち、密を避けて会議や事業を行わなければならない事態が生じました。理事会や総会は少人数が事務所に集まり、リモート体制とし、事業も委託先からの要請に応じたものになり、現在を迎えています。

私たちはこれまでの活動を通じて、“信頼のネットワーク”を築いてきました。リモートにおいてもその基盤を基に一定限は活動を維持継続できます。しかしながら、人と直接出会わずにリモートから新たな関係をスタートし、打合せや研修などの基本的活動をすることは容易ではありません。コロナに限らず感染症があることが当たり前の時代の中で、対面とリモートの組み合わせのハイブリッド（混成）の活動スタイルの模索が求められています。20年はこの時代が進行中です。

尚、理事会は中尾理事長へと世代交代し、若返りました。2018年度からスタートとした理事長、副理事長の月例会議は、新たに星野副理事長を加え、三島副理事長、私も副理事長として、事務局長の5人で月例の会議により、マネジメントを進めています。

しばらくはお互いコロナに注意し、健康第一で活動を続けていきたいと思えます。皆様には、変わらぬご支援とご指導を、引き続きよろしくお願い申し上げます、理事長退任のあいさつとします。

2020年8月

特定非営利活動法人ボランティアネイバース

副理事長 武長 脩行